

名古屋大学大学院環境学研究科「地球規模課題(9) 46億年の歴史」企画

食と農から循環型社会へのパラダイム転換を考える —歴史生態地理学の試み

講師：湯澤規子先生

(法政大学人間環境学部教授)

日時：2024年12月2日(月)15:00～17:00

場所：環境総合館レクチャーホール



変化は国や地域によってグラデーションがある

〔図は湯澤規子教授提供〕

歴史地理学を専門とする湯澤先生が、複眼的視点から、都市の農村依存や地球規模での「食」の問題を考えます。以下、湯澤先生からみなさんへのメッセージです。

今年4月に『入門 食と農の人文学』ミネルヴァ書房、を編みました。その内容のほか、現在、科研で取り組んでいる日本、ラオス、フランス、南アフリカ、(アイルランド)の集落&農地調査の知見も踏まえて、人の行為の蓄積の時空間による共通点と相違点、これからの環境を考えた時にどのような視点が必要なのかを考えてみたいと思います。

地球科学の視点で見れば地球表面(土、水、生物、植生、気候など)は多様であるがゆえに、その利用の形状や論理も複雑で多様であるはずなのに、人間社会や生活圏の均一化のために、その利用も均一化、合理化が進み、地球に負荷がかかりすぎているのではないか、というようなことを考えています。

申し込み：nszw@nuac.nagoya-u.ac.jp 宛にご所属・ご氏名をお知らせください。

申し込み締切：2024年11月28日(木) 17:00

主催：名古屋大学環境学研究科

問い合わせ先：「46億年の歴史」世話人・西澤泰彦 nszw@nuac.nagoya-u.ac.jp

道林克禎・杉谷健一郎・丹邊宣彦